



■第68回卒業式 卒業おめでとう!!



3月1日、315名の卒業生が読高を巣立って行きました。厳かで感動的な卒業式を挙行することができました。来賓や保護者の方々からも「とても素晴らしいかったです。」など、沢山のお褒めの言葉を頂いています。NHKのある調査によると日本人が選ぶ最も美しい日本語は「さようなら」と「ありがとう」だそうです。卒業式は、「さようなら」の日ですが卒業生はお世話になった方々へ「ありがとう」の感謝の日でもあります。今日の花道では「さようなら」と「ありがとう」で一杯でした。美しい日本語で一杯でした。卒業おめでとう!!夢を実現させてください!!

■東大生から読高生へのメッセージ

2年生修学旅行の一環で、最終日に東京大学で実施したプログラムの実施報告書が届きました。その報告書の「大学生からのメッセージ」から一部紹介します。

●読谷高等学校の皆さん、私たちのプログラムに参加してくれて本当にありがとうございました。

今皆さんはまさに進路選択の岐路に立っていると思います。なかには進路をなかなか決められない生徒さんや、進路を決めたけれどあまり納得できない生徒さんもいると思います。私のメッセージは、そうした生徒さんに向けたものになります。

進路に悩んでいる皆さんへ ~人生も急がば回れ~

今悩んでいる近い将来も大事ですが、近い将来だけではなく、遠い将来を一度考えてほしいです。勿論、そうそう簡単に遠い未来や遠い目標が決める訳ではありませんし、人によってはとても長い時間が掛かることもあると思います。でも、自分で納得して決めた目標は、近くに待っている困難の先を照らす強さを持っていますし、そうして遠い先を見つめることは、自らが希望する近い将来を示してくれます。だからこそ近い将来に悩んでいる生徒さんは、将来への貯金だと思っ



て「進路先でどんなことを実現するか」や「進路先でどんな人になるのか」といった遠い目標を真っすぐに見つめて、そしてよく悩んで下さい。最後に、今回のプログラムが皆さんの遠い将来の自分を見つめるきっかけになっていれば、私はとても嬉しく思います。

●皆さんは非常に積極的で、体験ゼミでも大活躍してくれました。これは他の県の学校ではなかなか見られません!皆さんのこうした長所を、大学進学後などに是非活かしてください。

■3月の行事

- 1日(木)第68回卒業式
- 3日(土)第2回数検
- 5日(月)高校入試検査場作成
- 6日(火)高校入試1日目
自宅学習 ~12日
- 7日(水)高校入試2日目
- 13日(火)高校入試合格発表
- 14日(水)芸術科発表会鳳ホール
第3回学校保健委員会
- 15日(木)第5回追試①
- 16日(金)第5回追試②

- 21日(水)春分の日
- 22日(木)進路講話12校時
ワックス作業3456校時
第3回学校評議委員会
- 23日(金)修了式・離任式
- 26日(月)新3年教科書販売
11:00~ヒロティ
- 27日(火)高校入試合格者
オリエンテーション
新入生教科書販売
12:00~ヒロティ
- 28日(水)新2年教科書販売
11:00~ヒロティ

★本の紹介コーナー★

書名:「バッタを倒しにアフリカへ」
著者:前野ウルド浩太郎



書店で、何度かその表紙を目にしてはいたが、奇をてらったのはあまり好きではない。手に取らずにいた。バッタの格好で、虫取り網を斜めにかまえたポーズの表紙である。バッタがバッタを倒しに行く、という意味であろうか。しばらくして、ある月刊誌に本書が紹介されているのを見た。読んでみると、その内容が表紙からの印象とは違っている。早速、購入。誤解であった。面白い。何ページか毎に「ブツ」と吹き出すし、その真剣さ、一生懸命さも十分に伝わってきた。

著者は、小学生の頃『ファーブル昆虫記』に感銘をうける虫を愛し、虫に愛される昆虫学者を目指す。努力の末、バッタの研究で博士号を取得し着実に夢に近づく。しかし、難問に直面するのだ。就職である。一般に、博士号を取得した研究者は、就職が決まるまでポスト・ドクター(ポスドク)と呼ばれるが、博士過多で大学や研究機関などへの就職が厳しい。いわゆるポスドク問題がある。また、日本ではく「バッタ関係の就職先を見つけることは至難の業」という事情もある。脇目も振らずバッタに愛情を注ぎ突き進んできた32才。そんな状況をくなんといふことなのでしょう。生活のことをすっかり忘れていた。とあるには、笑ってしまった。しかし、アフリカでは事情が異なる。バッタが大量発生し、深刻な飢饉を引き起こしているのだ。そこである研究機関から2年の期間で支援を受け、研究目的で西アフリカのモーリタニアに行く。

バッタは、緑色や茶色の普段見かけおとなしい孤独相と、仲間の数が増えたときに凶暴になる黄色と黒のまだら模様の群生相があるという。砂漠で孤独相のバッタを見ればく感動的に美しく、あやうく失神してしまう(群生相に遭遇してはく感激のあまり、泣きそうになった)。このように幸せな日々も送るが、不運にもく60年の一度のレベルの干ばつでバッタが消えてしまう。研究対象がいなく研究ができない。成果を出せないまま2年目が終わろうとしていた。支援期間が過ぎ無収入の中、帰国するか、留まるかの決断に迫られる。著者は後者を選択する。そしてその選択が、奇をてらった表紙へと繋がるのである。なぜか。続きは本書を読んで下さい。

やはり、好きなことを一生懸命にやる姿は清々しく、感動的でさえある。そう思う。



※サハクトビバッタ
群生相は、はねも長くなり1日に100kmも移動できる。